

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（六）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることとなります。

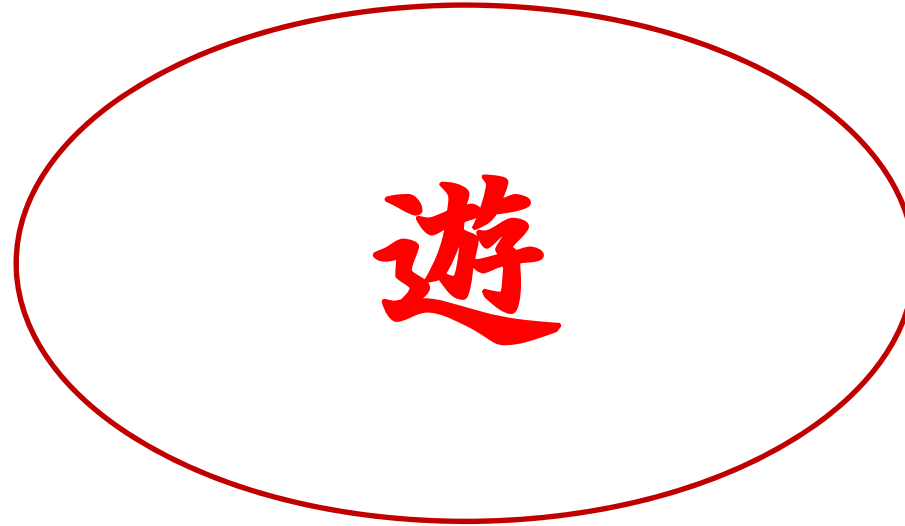
この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三



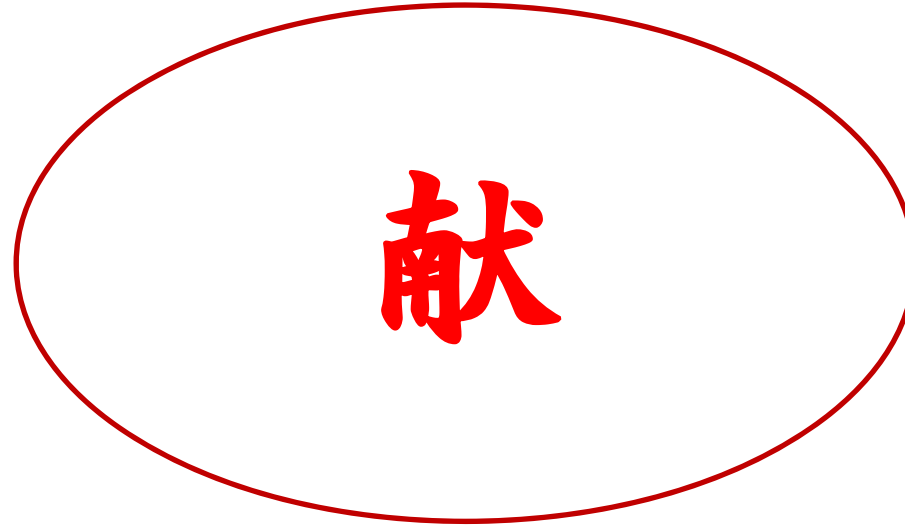
遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○構想段階は思い切りあるべき姿を追い、楽観的に考えていく
計画段階は慎重かつ悲観的に 実行段階は自信を持ち大胆に
アニメをやるならアニメばかり観てはダメ どの世界も同じ
勝利 無限では打倒だが有限では苦悩、とシモーヌ・ベーユ

○詩を詠む、物語を書くというのは 心に傷がないとできないという
いつも夜空を見上げながら 月と星から多くを感じとって筆にする
よく生き抜いたと納得して死ぬ覚悟 経験の重さは自分の魂の重さ
王道はない 疲れを恐れず石ころだらけの小道を登る、とマルクス

○経験や知識を体系化して伝える 教育とは激変を乗り越える知恵の修得
グローバルスタンダードの呪縛を解く 不純も包含しながら懐深くする
日本人 楽しむことを悪とみない民族 精神的な遊びを大事にした歴史
怒りは人の可能性を消す 振り向くな 後ろには夢がない、と寺山修司



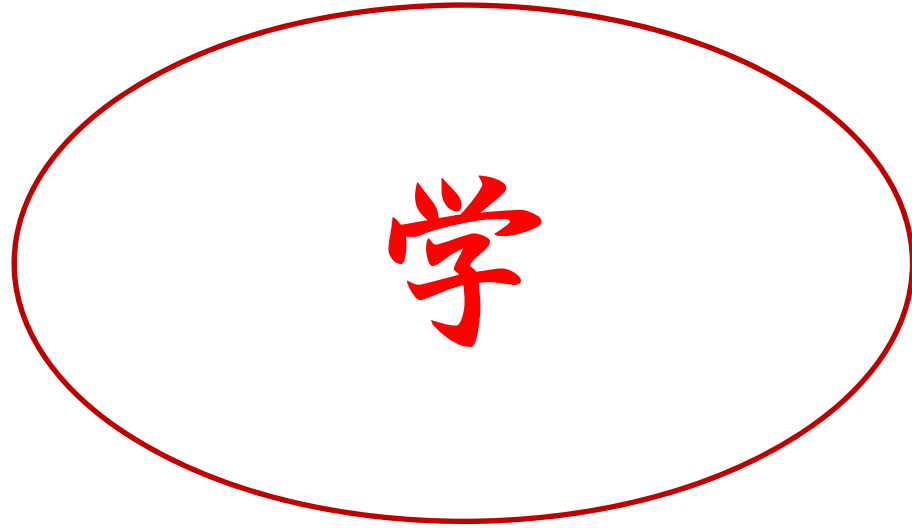
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○働かされている感覚では、潜在能力が顕在化しようがない能力を磨くプロセスが少ないことを実感、生き辛さがカベローマ帝国崩壊の一因、中間層が減少して貧富の差が拡大ロシア帝国も相似形、働く喜びを創意工夫、生き方は無限

○どの組織でも、上昇期にこそ問題の種が蒔かれている落ちながら昇っていく、何でもないようであるは大変想定内リスクは設計に反映、でも想定外は必ず起こるマキャベリ、時にはマキャベリズムを頑なに否定する

○一トンの塩を一緒に舐めなければ、その人間を理解できないともいう社長には大きな責任、MBAは、繰り返し使える道具を習得する場所世界は未知の領域、既知の道具だけでは新世界の秩序を生き抜けない零落の反対側に踏ん張る意欲が感じられない寂寥、と詩人の金子光晴



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○トラックもなければ ストップウォッチ、競技のルールすらない
二一世紀は原野を独りで走る世界 孤独に耐え自らを信じて走る
独自の方法を探す、終わりはない 休養と娯楽に適当な金を使う
教養としてのシェークスピアでなく、生活の中のシェークスピア

○ミュンヘン五輪、男子バレーで金メダル 松平康隆監督の洞察の勝利
世界一位の旧ソ連（ロシア）に留学 ソ連が世界一になる手法を学ぶ
日本が世界一になる手法をひたすら模索 ウルトラ時間差やクイック
スポーツ世界におけるリベラルアーツ（地力・底力）導入という独創

○変革期は歴史から学べる好機 いつ誰が何を捨てたのか
真似だけは御法度、仕事が小さくなる 自分の道に行く
人と人・モノとモノの間の、インタフェースを強化する
スカトール 最高級の香水にはウンコの匂いを利用する

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（六）」（抜粋）

著者 大浦勇三

二〇一三年七月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。